

## 岐阜県支部

### 集落営農の組織化・法人化に関する調査研究

わが国の集落の農業を取り巻く変化は、加速する少子高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増加、農産物価格の低迷などに加え、石油高騰に端を発した生産資材の高騰など経営上大きなリスクとなっている。集落においては、地域を担う大規模農家、中規模農家、小規模農家や兼業農家が一定の役割をもって農業に携わり、集落の機能の維持、効率的な農業経営を行うには、集落営農の組織化・法人化が重要である。

集落営農の組織化・法人化の狙いは、集落営農を担い手として位置づけ、認定農業者と集落営農を車の両輪として経営政策・構造政策をすすめることである。また、特定農業団体が法人化することで、継続的・安定的な経営主体として育成することである。

本報告書では、集落営農の展開状況と直面する課題を明らかにした。すなわち、集落営農の効果・課題、コスト削減効果、集落営農の特徴、集落営農で発生する問題を把握して、集落営農の組織化を進めることが重要である。集落営農には、集落が抱える問題を解決するため、組織化に取り組むきっかけづくりからスタートすることになるが、その進め方は、集落の環境や発展段階に応じた方法でなければならない。

集落営農組織の発展段階は、個人経営からの脱却、任意組織の段階、特定農業団体、法人創業期、経営安定期、経営確立期へと進展する。

これらの発展段階ごとの特徴を述べ、発生する問題・対策のキーワードを事例調査に基づき列挙した。各段階のポイントは、初期段階は集落の合意形成やビジョンの作成や組織づくり、任意組織の段階では組織の維持・改善、さらに発展して特定農業団体になると地域を担う機能づくり、法人創業期には担い手としての組織体を安定・成長発展させること、経営確立期では経営の高度化からさらに進んで高付加価値化のため事業の多角化や消費者との交流などである。

多角化については、水平多角化と垂直多角化がある。多角化は、多岐にわたるので事例で紹介した。集落営農のSWOT分析は集落営農がいろいろなタイプのものであり、まとめるのは無理があるが挑戦した。

集落営農の話し合い・合意形成は困難な面も多いがどうすればゴールまでたどり着けるか、組織結成までの道のりを具体的に示した。

全体のまとめとして、集落営農の成功のための留意点を成長の段階で発生するテーマごとに成功の要因を探った。悪魔のサイクルからの脱却、集落営農の組織化・法人化、集落営農の意義、推進組織、ビジョンと話し合い、組織の結成、運営、法人化である。最後に集落営農の支援業務を中小企業診断士としての立場からどう関わるべきかを検討した。

経営コンサルタントに求められる条件、組織化・法人化関連の支援業務と留意点に注目したい。

集落営農の組織化・法人化に関する本調査・研究結果を、農業・農村を活力あるものとし、農業の多面的機能の維持向上と、豊かな農村づくりの推進に役立てていただければ幸いである。